



613-000925 Rev.A 080307



最初にお読みください

CentreCOM® GS908SS/916SS/924SS リリースノート

この度は、CentreCOM GS908SS/916SS/924SS をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.4.1

2 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 1.4.1 には、以下の制限事項があります。

2.1 フラッシュメモリーの空き容量

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ファイルシステム」

フラッシュメモリーに 128KByte 以上の設定ファイルが存在する状態で、起動時設定ファイルの指定を切り替え続けていると、本製品がハングアップする場合があります。

2.2 RADIUS サーバー

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。SET RADIUS コマンドの DEADTIME パラメーターが 0（ゼロ=デフォルト）の場合、本現象は発生しません。

2.3 受信レート検出

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

受信レート検出機能を使用する際、エラーパケットを受信した場合も受信レートカウンターに計上されます。

2.4 ポート認証

 「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」

SET PORTAUTH PORT コマンドで MODE パラメーターに MULTI (Multi-Supplicant モード) を指定したポートに対して、さらに SET PORTAUTH PORT コマンドの PIGGYBACK パラメーターに ENABLED を指定して実行することが可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません (Multi-Supplicant モードのポートでは、PIGGYBACK は有効になりません)。

2.5 Web GUI

「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」

- Web GUI の「セキュリティー設定」 - 「ポート認証」の「ポート設定」で、Authenticator ポートのモード (Mode) に Multi を指定していても、Piggy back モード (PiggyBack) で Enabled の選択が可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません (Multi-Supplicant モードのポートでは、Piggy back モードは有効になりません)。
- 存在しない RADIUS サーバーを登録し、GUI からのログイン時にデフォルト以外のユーザー名とパスワードを入力すると、RADIUS 認証のタイムアウトが発生するまでの時間が設定時間よりも長くなる場合があります。
本現象は、CLI では発生しません。
- 通信負荷が高い状態で、Web GUI からファームウェアをダウンロードすると、ファームウェアのアップデート完了後、アップデートの進捗画面が自動的に閉じられないことがあります。

3 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

取扱説明書、および「CentreCOM GS900SS シリーズ コマンドリファレンス 1.4.1 (613-000924 Rev.A)」の補足事項です。

3.1 RADIUS パケットの Framed MTU について

「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

本製品の RADIUS パケットの Framed MTU は 1024 Byte に設定してあります。このため、認証・検疫動作に 1024 Byte を超えるデータサイズを必要とする一部の EAP との間で認証ができないことがあります。

3.2 IP

「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP エコー要求 (Ping) パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。

3.3 スイッチング

「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- スイッチポートの通信速度を AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO に設定すると link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。
- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される FCSErrors カウンターと、ExcessiveCollisions カウンターが正しくカウントされません。

3.4 ポートミラーリング

「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

タグ付き設定のソースポートでタグ付きパケットを受信すると、タグなしでミラーポートから出力されます。

3.5 パケットストームプロテクション

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

SET SWITCH LIMITATION コマンドで、受信上限値に 1500 (pps) 以上を指定して、パケットストームプロテクションを有効にすると、受信レートが設定値に達しない場合があります (ブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習のユニキャストパケットで共通)。

3.6 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**

- Leave メッセージを受信した後も Group Address、VLAN 名は SET IGMP Snooping TIMEOUT コマンドで設定した時間まで削除されません。TIMEOUT=0 設定時は Leave メッセージ受信後、約 60 秒で削除されます。
- 存在しないマルチキャストグループ宛での Group-specific Membership Query を受信すると、破棄されずにフラッディングされます。
- IGMP Snooping でグループが登録される前に、マルチキャストデータを高レートで受信し続けると、グループが登録されていない状態では IGMP パケットが転送されない場合があります。

3.7 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」**

Multi-Supplicant モードに設定された Authenticator ポートにおいて、Authenticator からの EAP-Request に対して、Supplicant から PAE グループアドレス (01:80:C2:00:00:03) ではなく、本体 MAC アドレス宛てに EAP-Response を送信された場合、正しく認証できません。

4 未サポートコマンド

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

SET HTTP SERVER PORT

SET SYSTEM LANG

5 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM GS900SS シリーズ コマンドリファレンス 1.4.1 (613-000924 Rev.A)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、あわせてご覧ください。

※パーツナンバー「613-000924 Rev.A」は、コマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>